

桃太郎 私的記録

2011/05/28

●外壁—基礎の換気口

2011/05/27 にテンペスト室内で、音圧レベルが上昇した原因が判明した。外壁—基礎にある換気口に設置した磁石の両面テープがはがれ、地面に落ちていたのが原因である。

このことから、外壁—基礎にある換気口から超音波が侵入していることが確認できる。

2011/05/27

●身体攻撃

02:00 に睡眠妨害、徹夜。

テンペスト室で、音圧レベル上昇。

2011/05/26

●防御方法

底下の磁石設置方法を業者に FAX

●他の被害者

F 氏への携帯の電話がつかならず。発信後すぐにキャンセルとなる。

2011/05/25

●外壁—基礎の換気口

南側、掃き出しまで磁石設置。和室の縦滑り窓で、可聴音化なし。

2011/05/13

●外壁—基礎の換気口

玄関ポーチ ネオジウム磁石設置。玄関ポーチでの音声送信の音圧レベルが低下し、可聴音化もなくなった。

2011/05/11

●外壁 1F 換気口

玄関ポーチ 西側 磁石設置。縦滑り窓（洗面横）、縦滑り窓（トイレ）で、上方からの可聴音化がなくなった。

2011/04/13

●ALSOK センサー

センサーコーキング。センサー方向からの可聴音化がなくなった。

●2F トイレ

収納内をコーキング・パテ。

2011/04/12

●和室

天井—壁の入隅 コーキング。

照明の裏側のみコーキングが終わっていない。音圧レベルは低下した。ふすまの隙間から超音波が侵入している。

● 2 F トイレ

収納内から超音波の侵入を確認。

2011/04/11

● 階段

踊り場高所のコーキング終了。可聴音化がなくなった。2階廊下で音圧レベルの低下。

● 2 F 洋間

エアコンの後ろの壁—天井の入隅のコーキング終了。音圧レベル低下。ベッドに横になると同時に音圧レベル上昇。

ドアの隙間から侵入している可能性が高い。

2011/04/03

● 玄関

天井と壁の入隅の半分をコーキング。

2011/04/02

● 機械室

天井と壁の入隅をコーキング。音声送信の音圧レベルは低下した。

● 1 F 廊下

天井と壁の入隅をコーキング。音声送信の音圧レベルは低下した。

2011/04/01

● テンペスト室

北側換気用室内がらりと天井との間に隙間があることを発見。ここから超音波が放射されていた。この超音波がカーテンボックスに反射して放射されていた。このため、カーテンボックスの塗装が白くめくれている。おそらくは強力超音波の温度によってめくれ上がったのではないかと考えられる。この現象を自宅内で数カ所発見している。

2011/03/31

● ドア額縁

2 F コーキング終了。

● テンペスト室

北側換気口と天井との間に隙間を発見。カーテンボックスの超音波の反射痕がある。

2011/03/30

● テンペスト室

業者によりコンセントボックスを確認。2011/03/27の「鉄管経由で、コンセントボックスから超音波が放射されていることを確認。」は、トリックであった可能性が高い。

2011/03/29に部屋の入隅をコーキングする前に比較して、音圧レベルが低い状態が継続している。このことは、部屋の入隅のプラスターとプラスターの隙間から超音波が放射されていたと考えざるを得ない。なお、クロスは、コットン製であり、入隅に目地シールが打っていない。

エアコン（ビルトインタイプ）吹き出し口に扇風機を向けると音圧レベルが低下。エアコンのダクトとプラスターとの隙間から、壁内部に侵入した超音波が室内に放射されている可能性が著しく高い。

「エアコンのダクトとプラスターとの隙間」にネオジウム磁石をつける。音圧レベルは低下しない。「エアコンのダクトとプラスターとの隙間」以外に超音波の侵入口があるのか、ネオジウム磁石の効果がないのか、現時点では、未確定である。

以上のことから、テンペスト室内では、主な侵入口は、「エアコンのダクトとプラスターとの隙間」であり、その他に考えられることは、プラスターとプラスターの隙間からの侵入があるかである。ジョイント部分にクロス業者がパテを塗っていないと、ここからも侵入している可能性がある。

現時点では、音圧レベルは低い状態が続いているが、主な侵入口である「エアコンのダクトとプラスターとの隙間」の対応が終わると同時に、仮に、プラスターのジョイント部分に隙間がある場合には、ここから超音波を放出させてくる可能性がある。

●外構

基礎—外壁にある換気口から、超音波が放射されていることを確認できず。この結果は、2011/03/27の記録と矛盾する。2011/03/27の記録は、トリックによる可能性がある。

●車両

業者の車両に同乗した。管理者及び他の被害者の車両と同様に、ハンドル周辺からの超音波の放出・可聴音化を確認。

業者の人間が、ハンドルに寄りかかると、助手席にいた管理者の音圧レベルは低下した。また、エアコンその他に手をかざしても、可聴音化しない。

この業者の人間は、集団ストーカーの犯罪に巻き込まれている。数日にわたる体調不良（医者の診断では特に悪いところはない）、布団に横になってから考え事が勝手に浮かび全く眠れない、夜裸り返し夢を見る、運転中に、ぼーとするなどである。

車両内では、バックのときに後方を向いたときに気分が悪くなるなどのことである。これは、乳様突起・後頭部に超音波を放射されていることによると考えられる。

2011/03/29

●テンペスト室 南側

天井—壁の入隅、クローゼットの出隅をコーキング。

コーキング中、激しい攻撃があったが、コーキング終了後、音声送信の音圧レベルはかなり低下した。

鉄管を経由して、照明に接続された鉄管から超音波が放射されている。クローゼットの扉に反射の形跡がある。現在も、クローゼットの扉、間仕切り引き戸に反射させて、頭部に放射されている。

●外構

基礎—外壁にある換気口から、超音波が放射されていることを確認。

2011/03/27

●テンペスト室

鉄管経由で、コンセントボックスから超音波が放射されていることを確認。コンセントボックスの周りに磁石を設置したところ、音圧レベルが低下した。照明器具については、磁石を設置していないため、照明器具に接続された鉄管から超音波が放射されている。

2011/03/26

●被害者の車両

他の被害者の車両で、インパネ内部を確認。インパネ内部からの超音波の放出を確認できなかった。ハンドル周辺からの超音波の放出を確認した。

この車両の外でも、この車両から超音波の放出されていることを、コンビニの駐車場で確認した。

このことから、被害者の車両に仕掛けられている装置は、少なくともハンドルの周辺の隙間から車両内部へ超音波が侵入でき、かつ、車両周辺の車両外部にも超音波を放射できる場所に仕掛けられていることになる。

2011/03/24

●ドアノブの受け

ドアノブの受けからの超音波の侵入の可能性はなくなった。受けは、MR F製の額縁に彫り込まれた中に埋まっているため、内壁側には抜けていないことを確認。

2011/03/23

●2F洋間

プラスターの入隅からの超音波の侵入の可能性が高い。クロスはコットン製なので目地シールを打っていない。

●1F廊下

プラスターの出隅からの超音波の侵入の可能性が高い。クロスはコットン製なので目地シールを打っていない。

●テンペスト室

電源ケーブル用の鉄管からの超音波の侵入の可能性はある。

2011/03/20

●車両

ナビゲータの設定が変更されていることに気がついた。ヘッドアップからノースアップに変更されている。

音声送信

エアコンの吹き出し口に磁石をつけてある。エアコンからの可聴音化はなくなった。

下記の現象は、何十回も検証した結果である。

・ハンドルの角度との関係

ハンドルと車体との隙間での可聴音化がある。ハンドルの周りの可聴音化の場所は、決まっているようである。

ハンドルがまっすぐになっている場合—ハンドルの左右で可聴音化あり。

ハンドルを右に切った場合—ハンドルの右上方、ハンドルの左下方で可聴音化。音声送信の音圧レベルが小さくなる。

ハンドルを左に切った場合—ハンドルの左上方、ハンドルの右下方で可聴音化。音声送信の音圧レベルが小さくなる。

・自宅周辺での電柱のNTTの通信設備との関係

この電柱が右手のみにある場合—ハンドルの右側のみ可聴音化

この電柱が前方のみにある場合—ハンドルの上方のみ可聴音化

この電柱が後方のみにある場合—ハンドルの下方のみ可聴音化

・公道上で信号待ちなどで停車中に前後の車両との車間距離との関係

前方車両と車間距離が近い場合・前方に車両がない場合—ハンドルの上方は可聴音化しない

後方車両と車間距離が近い場合・後方に車両がない場合—ハンドルの下方は可聴音化しない

・車両の停車位置

交差点の真ん中で停車している場合—音声送信の音圧レベルが小さくなる。

車両内での音声送信が、集団ストーカーの車両からも成されていることは間違いない。このことは、タクシーや被害者以外の車両に乗ったときにも音声送信があることから明かである。

しかし、集団ストーカーの車両からの音声送信だけでは説明がつかない場合がある。被害者の車両に同乗し、周辺に車両・人・家・電柱も何もない山奥でさえも音声送信があることである。そして、この被害者の車両の周辺で可聴音化が生じることである。

そうだとすると、ターゲットの車両に装置が仕掛けられている可能性を否定できない。

●熱田自宅

トイレ内、幅木沿いに可聴音化。熱田自宅には、基礎—外壁、外壁—屋根には換気口はない。基礎に床下換気口がある。基礎の床下換気口から超音波が侵入している可能性が高い。

2011/03/19

●外構

西側の基礎—外壁沿いにゴールドクレストを植える。

2011/03/18

・外構

北側の基礎—外壁沿いにゴールドクレストを植える。東側の床下換気口からの可聴音化がなくなる。

床下換気口は、超音波の侵入口だけになっていると考えていたが、超音波の放出のための出口にもなっている可能性が著しく高い。床下換気口から超音波を放出することによって、庭（土）を歩いているときに、トラッキング・音声送信をしている可能性高い。

床下換気口から放出される超音波は、他の床下換気口から侵入した超音波が放出されている可能性が著しく高い。なぜなら、「床下」と「外壁と内壁との空間」はつながっていないからである。そうだとすると、「外壁と内壁との空間」にある超音波は、「基礎—外壁」にある換気口からか、「外壁—屋根」にある換気口から侵入している可能性が著しく高い。他に侵入口はない。

2011/03/15

テンペスト室北側の腰壁のコーキング終了（鉄管の背後を除く）。音声送信の音圧レベルは、頭部の方向によって大きくなる。ドアの受けの部分からの超音波の侵入を確認。

2011/03/09

テンペスト室の腰壁から超音波が侵入していることを確認。腰壁にコーキングを始める。

テンペスト室南側の腰壁のコーキングが終了後、南側に向いたときには、音声送信の音圧レベルが著しく小さくなった。

2011/03/04

PCソフト（wavegene, homepagebuidler）の一部が起動しなくなった（「動作を停止しました」のメッセージ）。このため、トラッキングの妨害のための超音波・高周波を出すことができなくなった。また、ホームページの更新ができなくなった。

2011/03/03

- ・階段

階段踊り場の窓の額縁周辺をコーキング（業者）。階段踊り場での、上方からの可聴音化はなくなった。

- ・階段 手すりの笠木

階段側をコーキング（業者）。

- ・2F 洋間

天窓の周辺をコーキング。天窓の上方からの可聴音化はなくなった。室内の換気口からの可聴音化を発見。外壁の換気口ガラリから侵入した超音波が侵入したのではなく、天井裏や外壁と内壁との間に侵入していた超音波が、室内の換気口ガラリとプラスターとの隙間から、室内へ侵入した可能性が高い。

- ・テンペスト室

本棚 コーキング。本棚は内壁に作り付けになっている。このため、外壁と内壁との間に侵入している超音波が、本棚の隙間から室内へと侵入している。

2011/03/02

- ・リビング

カーテンボックスを一度撤去し、掃き出しの額縁上部をコーキング。カーテンボックスを設置後、カーテンボックス上部からの可聴音化はなくなった。しかし、掃き出しのサッシの周辺で可聴音化がある。検証したところ、外部からサッシの隙間を経由して侵入しているのではなく、外壁と内壁に侵入している超音波が、サッシ枠に設置された、警備会社のセンサーとサッシ枠との隙間から、室内へ侵入している可能性が高い。

- ・ダイニング

カーテンボックスを一度撤去し、掃き出しの額縁上部をコーキング。カーテンボックスを設置後、カーテンボックス上部からの可聴音化はなくなった。リビングの場合と異なり、掃き出しのサッシの周辺での可聴音化はない。ダイニングの腰窓には、警備会社のセンサーがついていない。このため、リビングの場合と異なり、サッシ周辺での可聴音化はないと考えられる。

2011/03/01

- ・リビングー窓

カーテンボックスの上をコーキング（業者）。カーテンボックスの上側での可聴音化がなくなった。

- ・リビングー掃き出し

カーテンボックスの上をコーキング（業者）。カーテンボックスの上側での可聴音化がなくなった。

- ・天井のレールとプラスターのジョイント部分

可聴音化あり。

- ・引き戸の戸袋

可聴音化あり。

2011/02/28

- ・テンペスト室

クローゼット解体、床一プラスターには既にコーキングがされていたが、さらに、裏側をコーキング（業者）。クローゼットでの可聴音化がなくなった。これまでの、可聴音化は、トリックの可能性が高い。

・機械室

半分をコーキング。

2011/02/23

・2F 廊下

ドアの額縁のやり残しをマスキング。廊下での音声送信の音圧レベルはかなり低下した。クローゼット室内・洋間室内からドアの下方を經由して超音波の放射がまだある。クローゼットは、収納内から、洋間は天窓額縁から放射されている可能性が高い。

・リビング

幅木一壁のやり残しをコーキング。

ドアの額縁の一部をコーキング。

・クローゼット

幅木一壁のやり残しをコーキング。音声送信の音圧レベルはかなり低下したが、まだ、収納内の入り済みから放射されている可能性が高い。

2011/02/21

・和室 掃き出しのサッシ

レールの下方をコーキング。掃き出しからの超音波の侵入を確認できなくなった（シャッターは開いている状態）。さらに、天井からの侵入も確認できなくなった。前述の天井からの超音波の侵入は、掃き出しからの侵入と間違えていた可能性がある。掃き出しの方向に向いている場合には、音声送信の音圧レベルは小さい。

・ダイニング 腰窓

レールの下方をコーキング（一部、コーキングができてないところがある。）。コーキングができていないところのみ、超音波の侵入を確認（シャッターは開いている状態）。

2011/02/20

2F 洋間

幅木一壁 から超音波の侵入の可能性大。コーキングをする。

ドアの下からのみ超音波の侵入を確認。ドアの上・左右にはゴムのパッキングあり。ゴムのパッキングがある場合には、超音波が侵入できない可能性が高い。

ドアの下にネオジウム磁石を置く。ネオジウム磁石のない部分のみ、超音波の侵入を確認。磁石のない部分は、4～5センチ。なお、シンクの前の照明をつけると、シンク前に立ったときに、音声送信の音圧レベルは低下することとの関係について検証する必要がある。

2011/02/18

1F 廊下、2F 廊下で音圧レベルが大きくなった。廊下（床一幅木）をコーキングして音圧レベルが小さくなってから3週間経過している。床一幅木以外の隙間から侵入経路を確保するのに3週間かかったことになる。

なお、音声送信「開通」が繰り返しあり。床一幅木をコーキングしたため、この隙間以外から超音波を侵入させているとの意味と考えられる。

1F 洋間

幅木一壁 北をコーキング。コーキングをしていない東側で可聴音化。

2F 収納02（窓などが一切ない）

幅木一壁・ドア額縁をコーキング。音声送信極小。

2F 洗面所

幅木一壁をコーキング。

2011/02/17

1F 洋間

幅木一壁の隙間から超音波が放射されている可能性が著しく大きい。西・南の半分をコーキング。

2011/02/16

階段下収納

コーキング終了。階段下収納内での音声送信の音圧レベルは、著しく低下した。音声送信は、引き戸と壁の間から侵入しているのみである。

和室

音声送信の音圧レベルは高い。天井からの音声送信を確認。床は、畳のために超音波が侵入する隙間がないためと考えられる。

なお、引き戸と壁の間からの音声送信を確認できず。

2011/02/15

1F 床下から床への上下水道などの立ち上がりによる隙間を、床下から塞ぐ（業者の施工）。トイレの便座の床下の隙間を完全に塞ぐことができません。

1F トイレ内で、便座後方からの音声送信停止。床下から便座への下水道立ち上がりのための隙間から侵入していた可能性が著しく高いことが確定した。

2011/02/14

頭部を電磁シールド用のエプロンで防御。

2階 収納（窓、換気扇など一切ない）

床一幅木のコーキング。

コーキング後は、収納内では、音声送信の音圧レベルが極めて小さい。ドアの隙間から侵入してくる超音波による音声送信と考えられる。

2階 トイレ

床一幅木のコーキング。

音声送信の音圧レベルは、ほとんど変わらない。トイレの中の収納内に上下水道が床下から床へ立ち上がっている。この床の隙間から超音波の侵入の可能性が高い。

2階 洗面所

洗濯機の背後を除いて、床一幅木のコーキング終了。洗濯機の反対側に頭部を向けると、音声送信の音圧レベルは小さい。洗濯機の方へ向くと、音圧レベルは高くなる。このことは、床一幅木の隙間から超音波が侵入していることと合致する。コーキングをしていない洗濯機の背後の床一幅木の隙間から超音波が放射されている。

2階 廊下の収納

床ー収納のコーキング終了。この後、リビング・ダイニングでの音圧レベル低下。廊下にある収納の床と幅木から侵入した超音波が、反射を繰り返して、リビング・ダイニングに侵入していた可能性がある。

掃き出し及び腰窓からの超音波の侵入の可能性が高い。扇風機2台を超音波が反射していると思われる壁に向け、シンクの照明を点けると、音声送信・かなきり音の音圧低下。

2011/02/13

サッシからの超音波の侵入は、室外と室内との間のサッシの隙間だけではないと考えら得る現象を発見。外壁と内壁の間に侵入した超音波が、サッシの枠のわずかな隙間を通り、室内に侵入している可能性がある。

外壁の換気口などから侵入した超音波が、外壁と内壁の間を経由して、サッシの枠の隙間だけでなく、室内のあらゆるわずかな隙間から、室内に放射されている。

2011/01/25

床と幅木のわずかな隙間からも超音波が侵入している可能性を発見。隙間を埋めるため、コーキング作業を始める。

2011/01/

すさまじい「かなきり音」が聞こえ、乳様突起を両手で塞いでも、かなきり音が聞こえ続けることがある。寝るときのための保温用シート（表面にアルミが漂着されている）を二重にし、頭部に巻き、額と首をタオルできつく縛ると、このかなきり音は全く聞こえなくなる。また、音声送信の音圧レベルは、かなり低下する。

金属は、空気との音響インピーダンスとの差が大きいため、ほとんどの超音波を反射する。金属が織り込まれた保温用シートや電磁シールド用のエプロンで頭部を覆うことにより防御が可能である。これらは、可能な限り隙間なく、頭部を覆うのに有効な手段であるからである。

ただ、超音波は、顔とこのシートのわずかな隙間から侵入してくる。メガネをかけているため、どうしても、隙間ができてしまう。このため、特に座っているときなど、頭部の位置が一定の場合には、音声送信の音圧レベルが大きくなることもある。

2011/01/

8000Hz、9000Hzの音をスピーカーから出すと、すさまじい「かなきり音」が聞こえるようになる。かなりの不快感である。乳様突起を両手で塞ぐと、このかなきり音は全く聞こえなくなる。8000Hz、9000Hzの音をスピーカーから出させないようにするための妨害工作である。

2011/01/

14000Hzの高周波をスピーカーから出すと、音声送信の音圧レベルが小さくなることを発見。14000Hzは、Lowreyパテントの周波数と一致する。

2011/01/

9000Hzで後方からのトラッキングに障害が出ることを発見。

2011/01/

トラッキングに特定に周波数が使われている可能性を発見。8000Hzをスピーカーから出すと、前方からの手に対するトラッキングに障害が出ることを発見。

2010/10～2010/12

家の中の、コンセント・スイッチ・LANなどの全ての設備に防音工事（防気カバーとパテ）をする。これにより、音声送信の音圧レベルは、全体的に低下した。

特に、家の中を歩いているときには、音声送信の音圧レベルは低下するか、音声送信が途切れ途切れになる。また、家の中の特定の場所で特定の方向を向くと、音声送信の音圧レベルは必ず小さくなる。

但し、ベッドで寝る場合、机・ダイニングテーブルに座っているとき、シンクの前に立っているときなどの、ターゲットが決まった位置に座ったり、立ったり、寝たりする場所では、音声送信の音圧レベルは小さくならない。これらの場所は、事前に音声送信・身体攻撃をするために、場所・頭部の位置などをプロットされていると考えられる。

2010/07

サッシの隙間から超音波が侵入している可能性があることを発見。引き違いのサッシは侵入している可能性が非常に高い。縦滑りサッシについては、侵入の可能性は低い。

2010/05

床下点検口を、植物を植えたプランターで塞ぐ。数日、音声送信の音圧レベルが低下したが、数日後に、元に戻る。

2010/04

かなきり音極大化。両耳に痛みあり。このため、窓・掃き出しをブロック状の発泡スチロールで作った壁で覆う。これによって、両耳の痛みはなくなった。

音声送信の音圧レベルは、数日、小さくなったが、数日で、元の音圧レベルに戻る。